

岡山県民の社会意識

円安・物価高がますます進む現在、わたしたちの社会意識はどうなっているのでしょうか？
税全体に対する意識や階層意識などについて、岡山のみなさんに質問してみました。

<結果ポイント>

税について

- 現在納めている税金全体について「負担を感じている」83.6%
- 税負担について「不公平だと思う」72.7%

納税について「ある程度負担を感じている(39.8%、2014年比11.9減)」「非常に負担と感じている(43.8%、2014年比9.0増)」が合わせて8割超となりました。”非常に”と回答した人が増えています。負担の公平感については「どちらか」というと不公平だと思う(28.3%、2014年比8.3減)」「不公平だと思う(44.4%、2014年比9.3増)」を合わせ7割超。明確に”不公平だ”と回答した人が増えています。

支払い方法

- 支払いはできるだけ「クレジットで」38.1%、「現金で」20.9%
- ポイントサービスは「キャッシュバック感覚で貯めている」51.6%、
「節約意識からポイントを貯めている」44.8%

格差感と階層意識

- 日本は所得格差が大きいと「思う」75.1%
- 社会での自分の位置は、10層中「4.5」層

社会を支える「税金」は多くの方法で集められています。安心して豊かに暮らすために日本にはおよそ50種類の税金があり、集められた税金は公平に暮らすために再分配されてゆきます。そして、世のデジタル化の流れは社会保障や納税にもポイントサービスを組み込むようになりました。加速するデジタル化の中、先日『ふるさと納税』制度について、ポイントを付与するサイトを通じて自治体が寄付を募ることを2025年10月から禁止するというニュースも出てきました。納税の意義や主旨から外れた様子は見受けられましたが、デフレ経済下において生活者に金銭的メリットをもたらしてくれていたと思います。また、税に関心が向いたことにより、社会の一員であるという当事者意識が強まり、問題意識が生まれ、より良い社会の実現へと繋がっていているのではないのでしょうか。

労働・雇用リテラシーの向上、非正規雇用者の増加、大学数の増加と細分化、コロナ禍経験、海外観光客の増加など、多様性を含有するようになった生活を送るわたしたちの意識は、“違いを受け入れる”姿勢を取ると同時に、実際の微細な違いを、何となくではなく、客観的に自覚するようになってきていると推測されます。「収入」「職業」「学歴」などから生まれる格差感を感じながら、社会において自分ほどの「当事者」として生きていくのか、確かめる機会が増えたのではないのでしょうか。

調査概要 調査手法 : WEB調査

調査対象 : 協同組合岡山情報文化研究所アンケートパネル『Vinsight(ビンサイト)』～岡山県在住者

調査期間 : 2024年4月1日(月)～2024年4月15日(月) 回答率 : 21.0% 集計サンプル数 : 454サンプル

回答者プロフィール : ◎男性44.7%、女性55.3% ◎20代8.2%、30代13.3%、40代20.5%、50代19.0%、60代以上39.0%

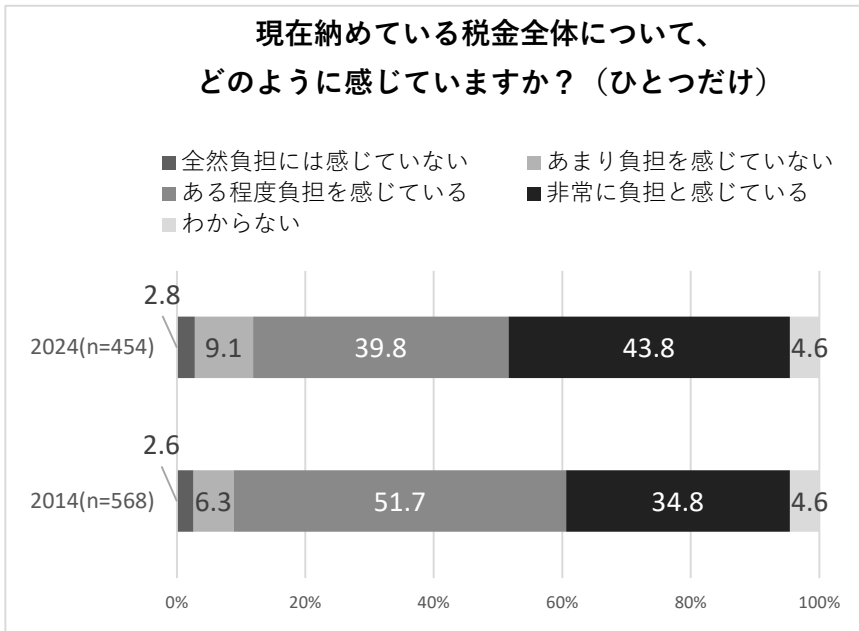
◎岡山市55.1%、倉敷市20.9%、その他の市町村24.0%

※国勢調査の性別・年齢分布値を参考にウェイトバックを行い、分析対象となるサンプルを補正。

比較データ : ◎自社調査「消費税増税後の岡山県民の意識」2014年4月実施

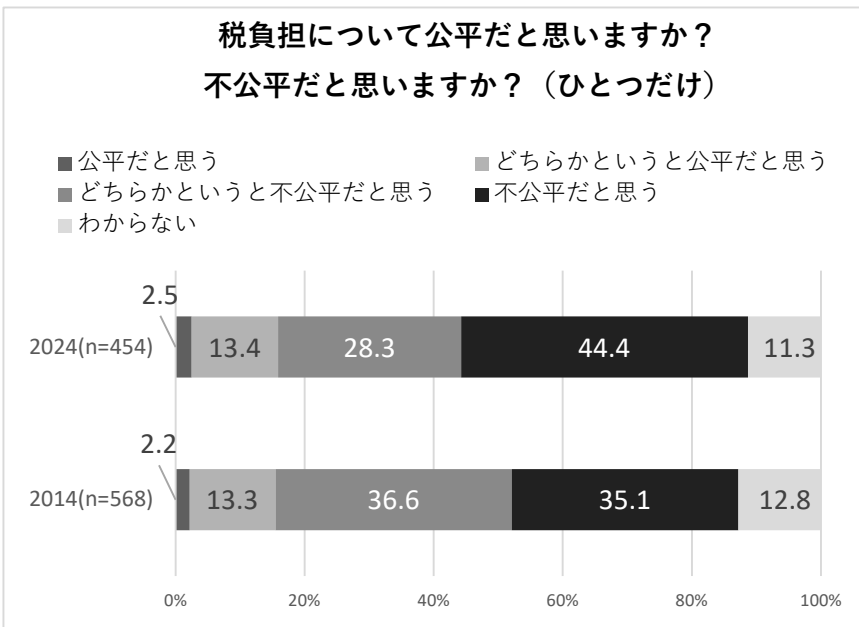
◎出典 : NIRA総合研究開発機構(2023)「キャッシュレス決済実態調査2023(速報)」～2023年8月実施、WEB調査

税の負担感と公平感



2014データ: 自社調査「消費税増税後の岡山県民の意識(Q.現在納めている税金全体について、どのように感じていますか?)」より

「全然負担には感じていない」「あまり負担を感じていない」という”感じていない派”が11.9%に対し、「ある程度負担を感じている」「非常に負担を感じている」の”感じている派”が83.6%を占めました。また、10年前と比べると負担感の強さが増しており、やや2極化しています。



2014データ: 自社調査「消費税増税後の岡山県民の意識(Q.税負担について公平だと思いますか？不公平だと思いますか?)」より

「公平だと思う」「どちらかという公平だと思う」が合わせて15.9%である一方、「どちらかという不公平だと思う」「不公平だと思う」は合わせて72.7%を占めました。

不公平感は女性よりも男性が強く、職業別では、公平だと思っている人が多いのは「経営者・役員」「無職」などで、不公平感が最も強いのは「会社員」次いで「公務員」となっています。

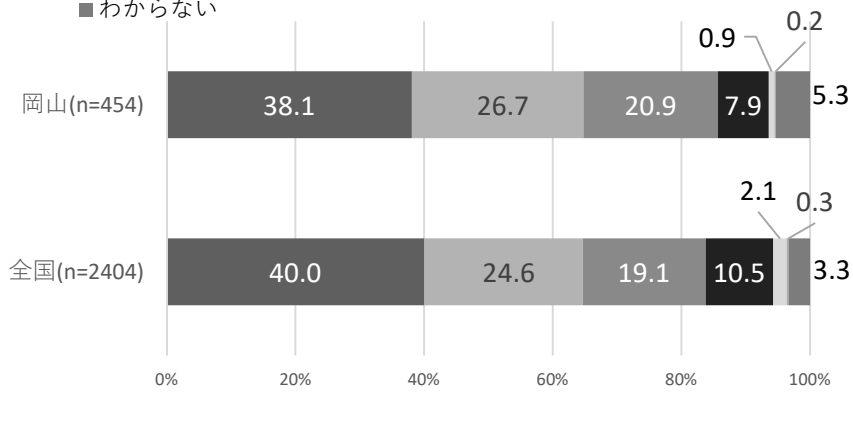
10年前と比べると不公平感は強まっており、この10年間で2極化しています。

※表、図及びデータ編の値は、四捨五入による集計上の誤差が生じることがあります。

支払い方法

商品やサービスの購入時の支払い手段について、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。（ひとつだけ）

- できるだけクレジットカードで支払いたい
- できるだけQRコード・バーコード決済（PayPay等）で支払いたい
- できるだけ現金で支払いたい
- できるだけ電子マネー（交通系電子マネー等）で支払いたい
- できるだけデビットカードで支払いたい
- 上記以外の方法で支払いたい
- わからない



全国データ: NIRA総合研究開発機構(2023)「キャッシュレス決済実態調査2023」より

商品やサービス購入時の支払い方法について最も好みの方法は「クレジット」、次いで「QR・バーコード」「現金」が続き、上位3つで85.7%を占めます。全国の結果と差はほとんど見られません。

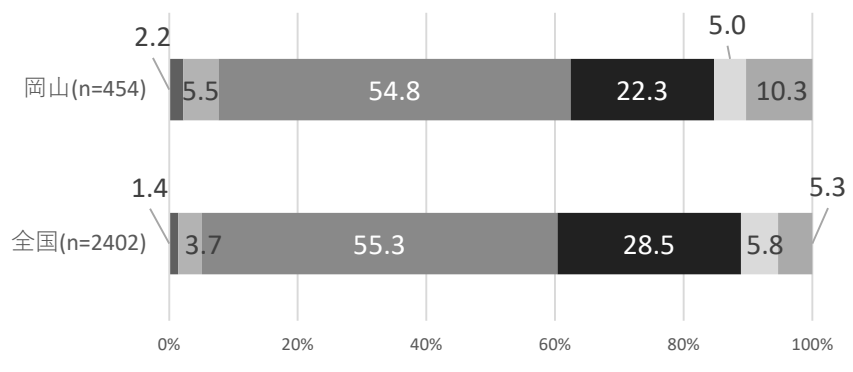
経済産業省はキャッシュレス決済比率を2025年までに4割程度にするという政府目標を掲げており、2024年4月1日時点で比率は39.3%になったと発表しています。さらに将来的には世界最高水準の80%を目指すとしています。

一方、7月3日には約20年ぶりに新紙幣が導入されます。多くの方はキャッシュレスを望んでいるものの、電子マネーへの入金や口座間の資金移動、医療機関や飲食店での支払い、小遣いや祝い金など、現金を必要・適当とする場面は多くあります。物価高の現在「使い過ぎ防止」や購買履歴や行動の「匿名性」など、今だからこそ現金が引き立って見えたりもします。当調査で「現金で支払いたい」と回答した人が多かったのは20代や60代以上でした。

ポイントサービスの利用

何種類のポイントサービスを利用していますか？（ひとつだけ）

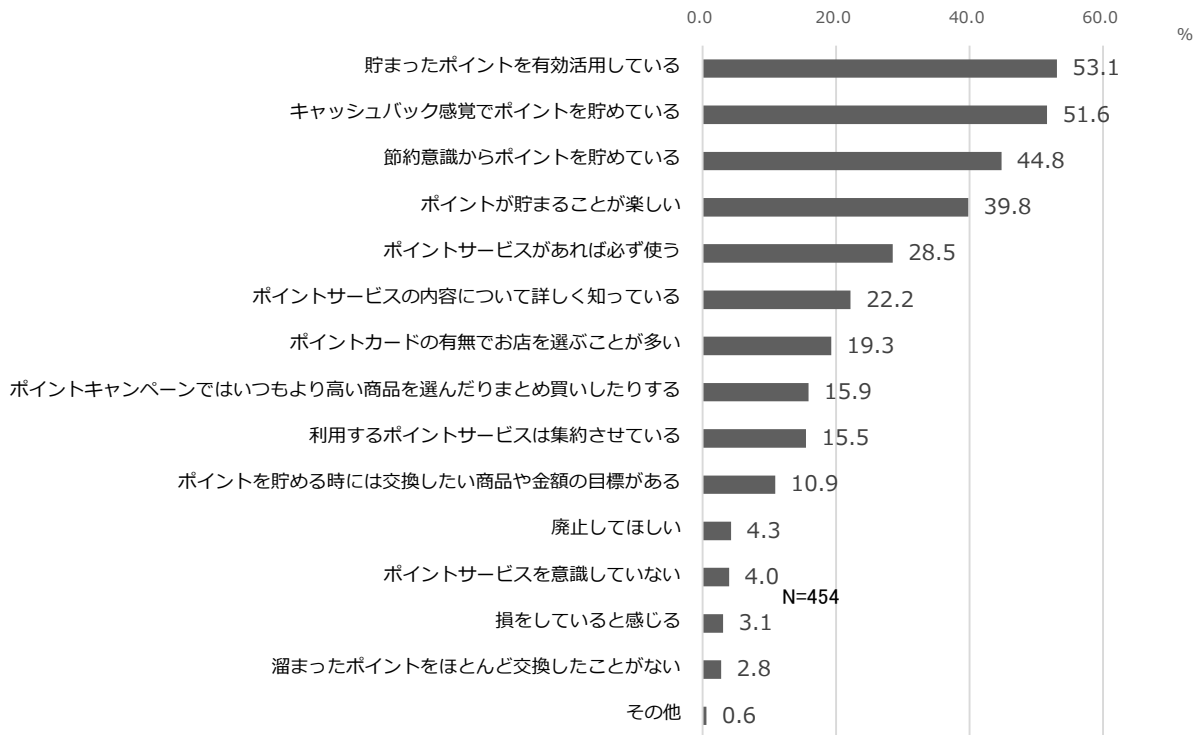
- 利用していない
- 1種類
- 2～4種類
- 5～9種類
- 10種類以上
- 把握していない



全国データ: NIRA総合研究開発機構(2023)「キャッシュレス決済実態調査2023」より

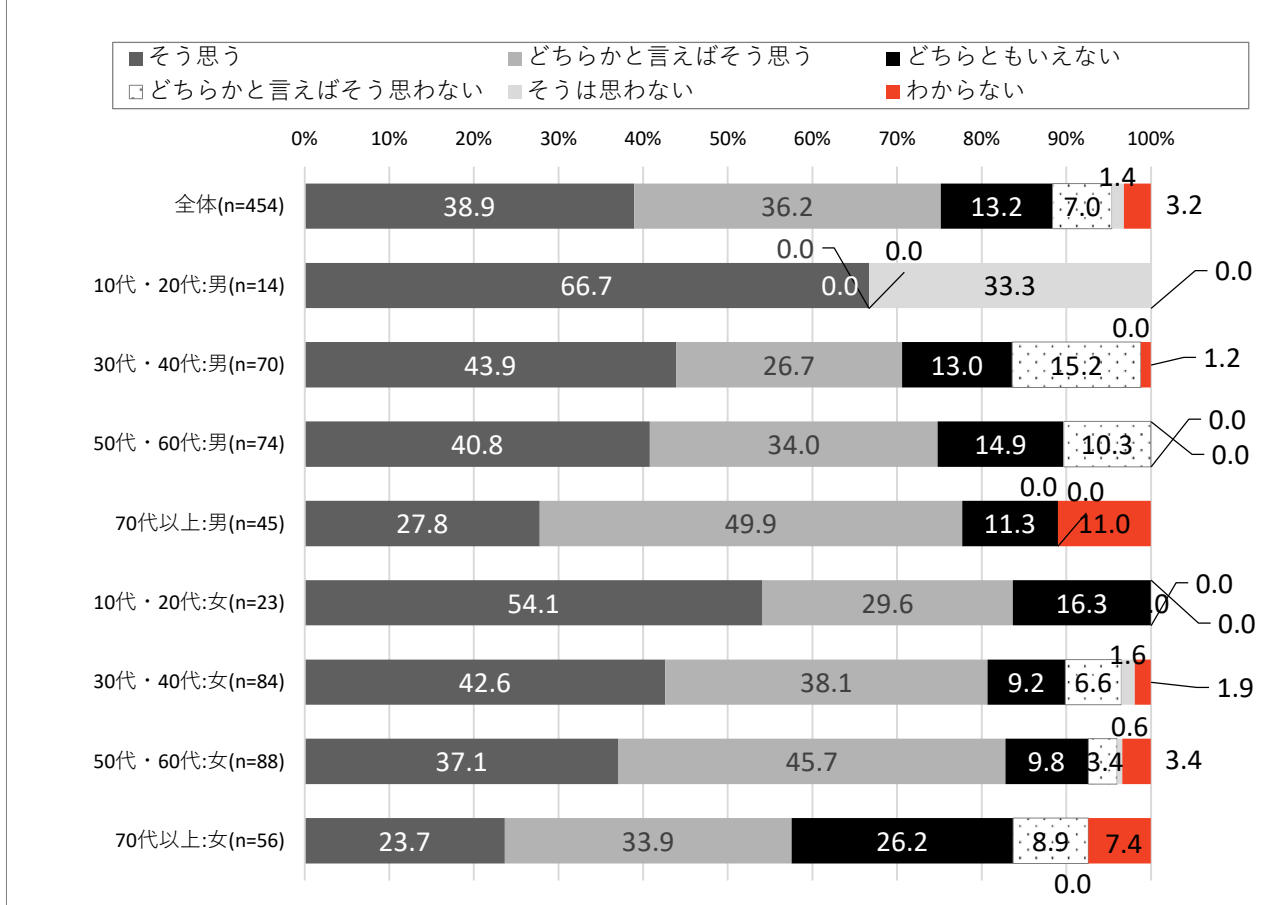
利用しているポイントサービスは「2～4種類」が最も多く、5割半ばを占めています。次いで多いのは「5～9種類」で2割強となっています。全国と比べると、岡山は「利用していない」「把握していない」が若干多く、全体として全国よりもポイントサービスの利用率がやや低めといえます。

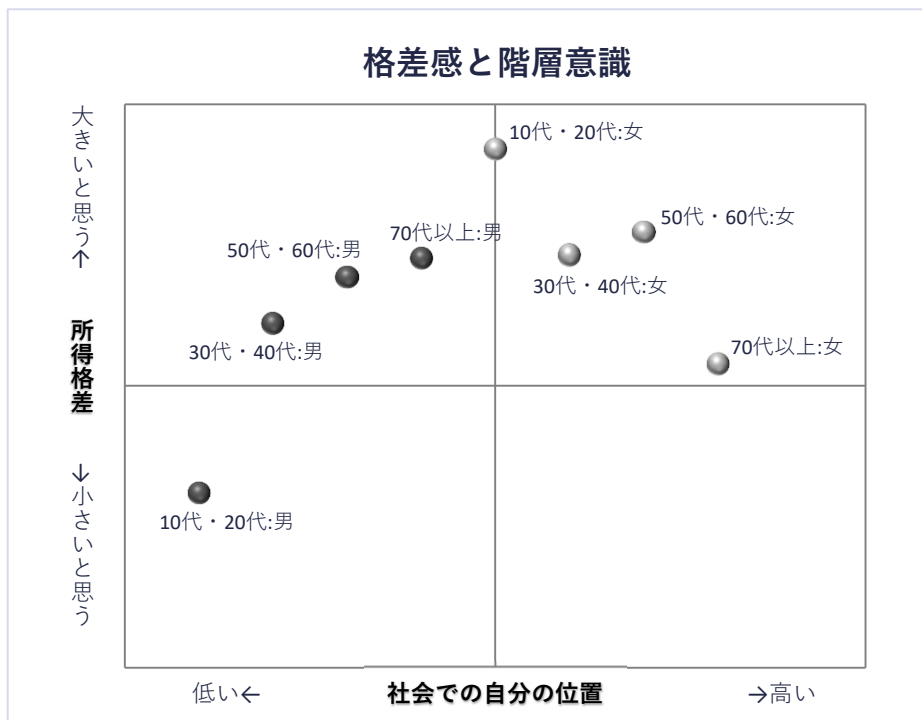
ポイントサービスに関して、どのような考えを持っていますか？（いくつでも）



階層意識

日本は所得格差が大きいと思いますか？（ひとつだけ）





社会での自分の位置(現在)について「仮に、日本の社会全体を様々な指標をもとに10層に分けたとして、いちばん下を1、いちばん上を10とした場合、あなたはどのあたりにいると思いますか?」との質問に対し数字で回答してもらったところ、平均は「4.5」となりました。「5~6」が真ん中ですので、少し低めの評価です。

また、「日本は所得格差が大きいと思いますか?」という質問に対して、格差感を強く感じていたのは順に、10代20代女性>50代60代女性>30代40代女性>70代以上男性などで、女性が強く感じています。

経済生活と文化生活にも関わる階層意識の対応関係をみてみました。10代20代男性を除き、多くの県民は所得格差を強く感じており、階層意識は男女できれいに分かれました。年代に関係なく男性はみな下級意識、女性はみな上級意識を持っています。社会をどう捉えているか、価値基準や教育の違いなど、さまざまな要因が推測されます。

[この件に関するお問い合わせ先](#)

協同組合岡山情報文化研究所／原内

〒700-0824 岡山市北区内山下1-3-1

電話:086-225-8181

<https://www.okayama-joho-bunka.org/inquiry/>